

ECC アーティスト美容専門学校 学校関係者評価委員会 報告書

学校法人山口学園 ECC アーティスト美容専門学校 学校関係者評価委員会は、2024 年 8 月 29 日に令和 5 年度自己評価報告書に基づいて学校関係者評価委員会を開催しましたので以下のとおり報告いたします。

2024 年 9 月 13 日

学校法人山口学園
ECC アーティスト美容専門学校
学校関係者評価委員会

- 開催日時：2024 年 8 月 29 日（木）16:50～18:20
- 場所：ECC アーティスト美容専門学校（2602 教室）、一部オンライン参加
- 参加者：
学校関係者評価委員（「ECC アーティスト専門学校 学校評価実施規定」選出区分）

【関連業界等関係者「同第 12 条第 1 項（1）」】

大久保 紀子 氏（一般社団法人 ジャパン・ビューティメソッド協会 JBMA）【委員長、オンライン参加】
荒川 悠子 氏（株式会社ガモウ関西）
河合 捺菜美 氏（株式会社クラフト・ワークス）

【卒業生「第 12 条第 1 項（2）」】

松田 裕香子 氏（ECC アーティスト美容専門学校卒業生）【都合によりご欠席】

【保護者または地域関係者「第 12 条第 1 項（3）」】

中上 隆雄 氏（済美地域社会福祉協議会 会長）【都合によりご欠席】
原田 道子 氏（ECC アーティスト美容専門学校在校生保護者）

【その他校長が必要と認める者「第 12 条第 1 項（4）」】

貴治 康夫 氏（立命館高等学校）

【同席者】

中村 竜二 ECC アーティスト美容専門学校 学校長
川添 雅英 ECC アーティスト美容専門学校 副校長
長尾 邦光 ECC アーティスト美容専門学校 キャリアセンター責任者
山崎 ひろみ ECC アーティスト美容専門学校 入試課責任者
松岡 佑治 ECC アーティスト美容専門学校 事務局・教務課
山本 恭子 ECC アーティスト美容専門学校 専任教員

令和5年度自己評価報告書に基づき概要説明、及び課題点の共有、参加委員様からの意見・質疑応答という形で議事を進行。

基準①：教育理念・目的・育成人材像、基準②：学校運営について、自己評価に基づき、これまでの取り組み状況、及び今後の見通しを報告した。委員からの質疑、及び意見は特になし。

基準③：教育活動、基準④：学修成果について、自己評価に基づき、これまでの取り組み状況、及び今後の見通しを報告した。また、本校が抱える課題として以下の点を説明

- ①コンテストや検定試験に対してモチベーションの低い学生に対する対応方法を構築していく必要がある。
- ②キャリア教育について、5年後や10年後の中長期的なキャリアビューの形成が十分ではない。

上記の基準③・基準④について、各委員のご意見

基本的には担任や普段から接する先生によるきめ細やかなケア・面談。興味を持たせるようなイベントなどの仕組み、きっかけ作りが重要ではないか。根本には美容に興味があって美容学校にきている、それを引き出すのがポイントではないか。学生と面談をするにあたって、誰が面談するかが大切で、同じような経験をした話は聞いてくれる。全員の学生と面談を持つことが大事ではないか。働き出してからその後のことはなかなか分からない部分もあるのではないか。

弊社が主催するコンテストは作品作りの楽しさを感じてもらうことを主眼に置いたイベントであり、それをやらないと美容師になれないわけではない。やることの意味や、その先に何があるかのビジョンを見せる、就職ややりたいものの先を学生に見せることも重要なのではないか。

どんな業界であっても、キャリアビューが見えている学生はほんの一部。授業内で色んな選択肢を見せる、例えば卒業生などの参加など。キャリアを決めないといけなく考えているのではないか、仕事を始めてからでも変わっていても良い、どんどん変わっていくものということ伝えることが大切。

弊社でもコンテストや検定へのモチベーションは様々。検定関係は取得する意味をまず説明することが大切であり、そうでないと、意味がない、受けないとなってしまう。就職に検定を使わなかったかもしれないが、選択肢の広がりなどもある。卒業生に依頼するなど、説明の深さを濃くする。コンテストはやってみないと分からない部分がある、自分に合う・合わないも体験してみないと分からない。弊社でもキャリア教育を実施。まだキャリアの選択肢をもっていないので、色んなキャリアを見せている。オーナー、店長、講師など。独立するだけがゴールではない、1つの会社の中でもどういったキャリアがあるかは様々。それを知ること、選択肢を持たないと想像もつかない。また、それが絶対ではない、フワとしたところから始めていくことも大切。老後を豊かにしたい、幸せな家庭を築きたい、そのためにはお金も必要、どうやって稼ぐ？といったような大枠から話していく。

コンテストや検定への取り組みは、個人差が出てくる。特にコンテストは分かれる。このコンテストは全員必須、これは任意のように分けてみるのはどうか。検定も同様で、やる気のある学生、ない学生を混ぜてみる。実体験から感じる機会があってもよいのでは。美容室といっても様々、美容師も様々なので、カテゴリーに分けて、色んな種類を見せることが大切。色んなOB・OGのタイプを見せるのはどうか。

検定は大事だと伝えることが大切。コンテストはあまりイメージが湧かない。他の学生や選ばれた学生の作品を見てみたい。

基準⑤：学生支援、基準⑥：教育環境について、自己評価に基づき、これまでの取り組み状況、及び今後の見通しを報告した。また、本校が抱える課題として以下の点を説明

- ①学校と保護者との積極的な連携強化、連携に積極的ではない保護者の対応が十分にできていない。
- ②インターンシップの活用方法の構築が十分にできていない。

上記の基準⑤・基準⑥について、各委員のご意見

小中高は学校に行く機会が多くあり、知る機会が沢山あるので、興味がわく。それ以降は、学校に行く機会がなくなり、もう大人だからと、興味が薄くなっているのではないか。SNS等も公開されているが、SNSを見ない世代もいる。どういった学生が、どういった就職をしたのかが知れると保護者は有難い。

卒業への意欲につながるので、インターンシップは就職を希望する分野で、1月、2月が良いのではないか。その時期であれば、卒業式、成人式後撮りなど、サロンでヘアメイクが体験できる時期に当たる。コース特性によって中身が分かる時期に。やりたいことが分からない状況では難しい。1年程度学んだ中で経験するのが良いのではないか。就職活動としてではなく、実習先選びとしてサロン探しをする、事前学習としてマナーも重要。些細な行動でも目に付く場合があるので、損をしないように、インターン前のマナー学習は大切。また、企業側への教育、希望する業務内容を事細かに伝える必要、見て学ぶ形にはならないように。

必ず1回は保護者と面談をする。学校で会えない場合には学外で面談するなど、とにかく絶対に会うことが大切。

インターンシップはどの学校でもされているが、違う業種に行くのも面白い。どのコースでもあっても美容室に行くインターンに行かせる

学校はある。別業種に行くことで、目標がずれてしまう可能性に注意が必要。1回は必須、それ以上は任意でも良いかもしれない。就職で悩んでいる学生が追加で行ってみるなど、就職に繋がっていくのではないか。マナー研修を入れる、学校の看板を背負って行くことになるので、立ち居振る舞いなど色々な良い効果があるのではないか。サロン側は就職してもらえるかもしれないという意識から、お客様扱いをするケースがあり、そうではなく、教育の一環としての住み分けが必要。

基準⑦：学生の募集と受入れについて、自己評価に基づき、これまでの取り組み状況、及び今後の見通しを報告した。委員からの質疑、及び意見は特になし。

基準⑧：財務、基準⑨：法令等の遵守について、自己評価に基づき、適正に運用している旨を報告した。委員からの質疑、及び意見は特になし。

基準⑩：社会貢献・地域貢献について、自己評価に基づき、これまでの取り組み状況、及び今後の見通しを報告した。委員からの質疑、及び意見は特になし。

今回の議事を踏まえて、本校では下記の通り対応策を講じて参ります。

学校関係者評価委員会では、毎回委員の方々より、本校の教育活動、運営における課題に対し客観的な視点から専門的な多くのご意見、提言をいただいております。

今後はいただいたご意見、提言を真摯に受け止め、「美容業界で長く活躍できる人材育成」という目標達成のために、教育の質保証、学修成果の向上を目指し、改善に努めて参ります。

モチベーションの低い学生への対応は、引き続き、全員の学生とコミュニケーションをいろいろな機会で行うように学校としても取り組んで参ります。

キャリア教育は、同じ美容業界でも様々な職種や働き方があり、社会に出てからの勤務先のサロンにより、キャリア教育の説明がなされているようです。本校でも業界研究をすべてのコースに導入していますが、キャリアビューとして5年先や10年先のことなど、担任、OBOG、プロによるセミナー等で見せていくことを継続して参ります。

保護者との連携強化では、これまで学内の行事や授業をSNSで発信していますが、保護者の方でも見ている方とそうでない方がおられるので、学生生活や就職状況など保護者に見ていただける機会を増やしていくように努めます。

インターンシップについては、参加する前の準備としてインターンの注意事項やマナー教育の必要性などを再確認し、受け入れ先との業務内容や目的について事前打ち合わせすることにより、充実した内容に精度を上げていきます。

上記項目の具体的な取り組みを次回の学校関係者評価委員会で提示してまいります。

以上